



週間情報



No.3042

発行日 平成30年11月6日

発行所 全国消防長会

一般財団法人 全国消防協会

担当 企画部企画課 03(3234)1321

両会の動き

◆ 第67回全国消防長会危険物委員会及び危険物委員会視察研修会を開催

全国消防長会危険物委員会

平成30年10月25日（木）、静岡県富士市（ペアステージノイ）において第67回全国消防長会危険物委員会を、また、翌日26日（金）には、富士市消防本部において危険物委員会視察研修会を開催し、来賓・委員約50名が出席しました。

○第67回全国消防長会危険物委員会

【議案】

- 1 浮き屋根の老朽化に伴う指導について
- 2 危険物施設の事故防止のための違反処理実例集について
- 3 海外から輸入される危険物の運搬及び貯蔵について
- 4 危険物輸送車両の立入検査で交付するステッカーの新元号への対応について
- 5 次期開催地について

【情報提供】

- 1 石油コンビナートにおける災害対策の推進
- 2 非常用発電設備等の配管への耐震措置に係る指導の開始について
- 3 ガソリンが混入した灯油の販売事案について
- 4 消防研究センターの体制と事業概要
- 5 危険物等事故事例から学ぶ教育資料について
- 6 危険物保安技術協会より情報提供
- 7 一般財団法人全国危険物安全協会より情報提供

○危険物委員会視察研修会

【研修内容】

「荒川化学工業(株)富士工場の火災について」

富士市消防本部 予防課

参事補兼査察担当主幹 諸星 友康 氏



【危険物委員会の様子】



【視察研修会の様子】

◆ 第4回秋田県消防救助研究会を開催

秋田県消防長会

秋田県消防長会（開催事務局：能代山本広域市町村圏組合消防本部）では、平成30年10月26日（金）、秋田県能代市において、第4回秋田県消防救助研究会を開催し、県内13消防本部から約200人が参加しました。

今回の研究会では、「現場指揮」、「育成に関する取り組み」及び「秋田県消防救助の展望」について、各消防本部の出席者によるグループディスカッションを実施しました。

また、秋田市消防本部から、平成30年北海道胆振東部地震における緊急消防援助隊秋田県隊の活動状況及び瓦礫救助訓練施設の概要についての発表、由利本荘市消防本部から、ドローンの活用事例についての発表が行われ、会場からは多くの質問が寄せられ、活発な質疑応答が繰り広げられました。

これからも、当研究会を通じて、消防救助の知識・技術力の向上を目指すとともに、大規模・広域災害時に、各消防本部が連携して円滑な活動が行えるよう、各消防本部間の交流を深め、顔の見える関係を構築することが重要であると再認識しました。



【研究会の様子】

消 防 本 部 の 動 き

行 事

◆ 消防広場を開催～おおがき未来フェスティバル～

大垣消防組合消防本部（岐阜）

大垣消防組合消防本部では、平成30年10月20日（土）及び21日（日）、大垣市制100周年記念事業の一環で開催された「おおがき未来フェスティバル」において、消防広場を開催しました。

このイベントは、子どもから大人まで幅広い年代の方々が、消防業務や防火・防災について、実際に見て、体験していただくことで、消防をより身近に感じてもらうために開催しました。

当日は、天候にも恵まれ、消防車両の展示、煙体験、子ども用防火衣を試着しての写真撮影、火災予防に関する啓発リーフレットを配布するなど、消防業務や火災予防に関してのPRを行いました。



【イベントの様子】



【煙体験のブース】

◆ 敬老会で住宅防火・防災キャンペーンを実施

佐久広域連合消防本部（長野）

佐久広域連合消防本部軽井沢消防署では、平成30年10月21日（日）、軽井沢町内の中軽井沢区及び新軽井沢区主催の敬老会において、防火PRを実施しました。

当消防署では、「助ける」と「軽井沢」の頭文字をとって、「助軽ンジャー（たすかるんじゃー）」と「助かるんだ（たすかるんだ）くん」という2つのオリジナルキャラクターを作りました。

敬老会では、住宅用火災警報器の設置、住宅用消火器の設置及び防災品の使用を呼びかける寸劇を披露することで、火災予防のPRを行いました。

今後とも、この親しまれるキャラクターを使いながら、消防への理解を深めて頂けるよう、防火啓発のPR活動を進めていきたいと考えております。



【オリジナルキャラクターによる寸劇の様子】

◆ 福岡県火災調査担当者会議を開催

福岡市消防局（福岡）

福岡市消防局では、平成30年10月26日（金）、福岡県下消防本部の火災調査実務担当者による火災調査担当者会議を開催しました。

近年、火災の原因は複雑・多様化し、原因究明は高度化していますが、他方で、情報公開制度の進展により、火災調査結果の公開請求、捜査機関からの照会等は増加しており、火災原因調査報告書の正確性、信頼性が強く求められています。

このような状況を踏まえ、各消防本部が課題としている調査員の育成方法、情報公開の対応、警察との連携等について検討し、各消防本部の取り組みについて情報交換を行いました。

また、火災調査における各消防本部とのネットワークを確立する、大変有意義なものとなりました。



【火災調査担当者会議の様子】

訓練・演習

◆ 都市ガス災害対応合同訓練を実施

神戸市消防局（兵庫）

神戸市消防局では、平成30年10月16日（火）、大阪ガス株式会社導管事業部人材開発センター（大阪市）において、特殊災害隊員及び救助隊員を対象に、同社兵庫導管部緊急保安チームとの「都市ガス災害対応合同訓練」を実施しました。

訓練内容は、都市ガス漏洩等の緊急時対処の実地に主眼を置き、ガス着火体感、木栓打ち訓練、共同住宅におけるガス漏洩時の住民避難誘導、ガスの検知・測定、ガス排出時の初期保安対応訓練等を行い、非常に充実した内容の合同訓練となりました。

当訓練は、平成19年から毎年実施している訓練であり、多くの職員が都市ガス災害の知識・保安技術を習得しております。

これからも、訓練を通し、関係機関相互の連携強化を図ってまいります。



【木栓打ち訓練】



【ガス排出時の初期保安対応訓練】

◆ 平成30年度北海道高速自動車国道事故等対策訓練を実施

小樽市消防本部（北海道）

小樽市消防本部では、平成30年10月18日（木）、北海道横断自動車道（後志自動車道）忍路トンネル上り線出口において、事故等対策訓練を実施しました。

この訓練は、高速自動車国道の多重衝突事故において、各関係機関との情報伝達・情報共有及び救急救助活動等の迅速かつ確実な連携活動を実施することを目的として実施しており、今年度は、現在建設中の北海道横断自動車道の開通を前に、当消防本部、北後志消防組合消防本部（北海道）、北海道警察本部、東日本高速道路株式会社北海道支社（ネクスコ東日本）及び北海道バス協会の5機関より、車両計15台、計72名が参加しました。

「自動車道を走行中の観光バスを含む車両6台による大規模な交通事故により、車両火災が発生した」との想定のもと、訓練を実施しました。

今回の訓練を通して、自動車道における事故発生時の初動対応、各関係機関との連携体制及び開通後の事故等に向けた安全対策を確認することができました。



【多数傷病者発生時のトリアージ訓練】



【横転した事故車両からの要救助者救出訓練】

◆ 多数傷病者対応机上訓練を実施

鹿島地方事務組合消防本部（茨城）

鹿島地方事務組合消防本部では、平成30年10月18日（木）、茨城県立カシマサッカースタジアム内会議室において、多数傷病者対応机上訓練を実施しました。

当消防本部管内は、いきいき茨城ゆめ国体2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催地となっており、テロ災害等が起きた場合、多数の傷病者発生が懸念されることから、こうした事態に迅速に対応できるよう、関係機関との目的意識の統一を図るべく、机上訓練を実施しました。

この訓練では、消防・警察のみならず、茨城県、関係市、茨城DMAT、鹿島医師会、近隣病院、保健所、施設管理者の鹿島アントラーズFC等、数多くの関係機関が参加し、多数傷病者に対する共通認識を持つことができました。

今後も、関係機関との連携を強化し、各種災害等への対応能力向上に努めていきます。



【訓練の様子】

◆ 日曜日の温泉街で「木造家屋密集街区防災訓練」を実施

豊岡市消防本部（兵庫）

豊岡市消防本部では、平成30年10月21日（日）、小説家志賀直哉の短編小説「城の崎にて」の舞台で有名な城崎温泉街において、「木造家屋密集街区防災訓練」を実施しました。

当消防本部では、平成27年1月、全半焼12棟、焼損面積2,202㎡、死者2名を出した城崎温泉火災を教訓に、木造家屋密集街区として167街区を指定し、消防団を含めた出動体制の見直しや、全街区内の地理や建物一軒一軒を職員が調査を行い、「木造家屋密集街区消防活動計画」を作成しました。

訓練では、「木造家屋密集街区内の建物から出火。折からの強風に煽られ延焼拡大中！」との想定により、約220人が参加し、町内会、旅館組合及び観光協会による初期消火、避難誘導、宿泊者の代替旅館への振り替え訓練や、県消防防災航空隊による現場映像の受信訓練、消防・警察による消火・避難誘導訓練等を行いました。

実際に指定された街区を使用して実践的に実施することで、各種活動等の確認を行うことができ、実災害に則した大変有意義な訓練となりました。



【消火訓練の様子】



【避難誘導訓練の様子】

◆ 警防活動技術訓練を実施

南越消防組合消防本部（福井）

南越消防組合消防本部では、平成30年10月23日（火）及び24日（水）の2日間、管内にある解体予定の建物を活用し、要救助者の検索及び救出活動を想定した訓練を実施しました。

訓練では、座屈したRC建造物を想定した各種ブリーチング訓練を実施するとともに、天井裏（吊り天井）を活用した閉鎖空間での収容・救出訓練を行いました。

天井裏からの救出訓練では、天井自体の強度が無く不安定な環境の中、各隊が資器材を活用し工夫しながら訓練に取り組み、要救助者の救出方法を確認することが出来ました。

今後も、様々な環境での訓練を実施し、救助技術の向上を図るとともに、安全管理の徹底に努めていきます。



【訓練の様子】

◆ メッツァ緊急事態対応訓練を実施

埼玉西部消防局（埼玉）

埼玉西部消防局は、平成30年10月24日（水）、管内に新設される「メッツァ（メッツァビレッジ平成30年11月9日オープン予定、ムーミンバレーパーク平成31年3月16日オープン予定）」の開業に先立ち、テロ災害を想定した2部構成の訓練を実施しました。

第1部は、不審者が施設内で火災・爆発を発生させたとの想定で行い、メッツァ自衛消防隊の消防訓練及び消防・警察が連携したテロ災害対応訓練を行いました。

第2部では、第1部で災害を発生させた不審者を警察官が制圧する訓練を行いました。

参加団体は、当消防局、飯能消防団、埼玉県防災航空隊、埼玉県飯能警察署、西武バス株式会社及び株式会社ムーミン物語の6団体で、計130名が参加しました。

この訓練を通じて、自衛消防隊の初動対応及び関係機関との連携が強化されました。



【自衛消防隊による消火訓練】



【関係機関による連携訓練】

◆ 高圧ガス施設での火災を想定した事業所との合同訓練を実施

田辺市消防本部（和歌山）

田辺市消防本部では、平成30年10月24日（水）、管内の液化石油ガス製造施設において、地震により破損した貯蔵タンクの配管から、ガスが漏えいして出火したとの想定で、事業所の従業員と消防隊合同で、消火活動訓練を実施しました。

当訓練は、平成30年度高圧ガス保安活動促進週間に伴い、事業所における高圧ガスに対する意識の高揚と保安体制の確立を図るとともに、消防隊の災害時の対応能力の向上を目的として実施しました。

訓練終了後は、高圧ガス施設の構造や充てん容器からの漏えい事故の対応などについての研修会を実施し、事業所施設及び事故対応に関する知識の向上を図ることができました。



【訓練の様子】



【研修会の様子】

◆ 有明海沿岸消防本部（局）合同潜水訓練を実施

大牟田市消防本部（福岡）

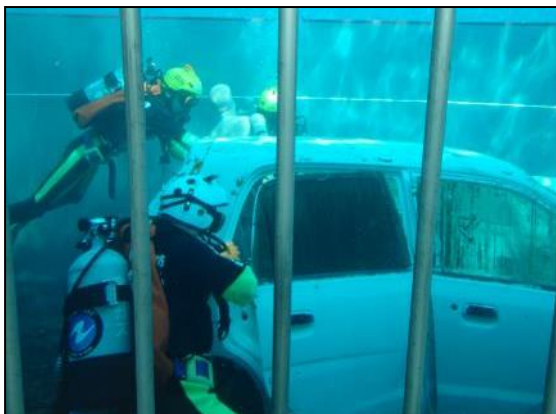
大牟田市消防本部では、平成30年10月24日（水）、佐賀県消防学校水難救助施設において、福岡県（当消防本部、みやま市消防本部、柳川市消防本部）、佐賀県（佐賀広域消防局、杵藤地区広域市町村圏組合消防本部）、熊本県（有明広域行政事務組合消防本部）の6消防本部（局）と、三池海上保安部及び第七管区海上保安本部福岡航空基地機動救難士4名の協力を得て、全8機関より潜水土計37名が参加し、合同潜水訓練を実施しました。

今回の訓練は、有明海沿岸等の水難救助事案に対する迅速対応及び連携強化を目的として実施しました。

当合同訓練は、平成23年度に当消防本部、三池海上保安部及び長崎海上保安部巡視船「でじま」の潜水土と1回目の合同訓練を開催して以来、継続的に実施しており、今回で9回目の訓練となります。

有明海は水中視界が非常に悪く、検索活動には高度な技術と熟練度が求められます。

今回の訓練では、目隠し等で視界制限を設け、環状検索、車両からの要救助者救出等、実践的な訓練を行いました。また、関係機関同士で情報交換等を行い、大変有意義なものとなりました。



【訓練の様子】

研 修 等

◆ 平成30年度気仙地域新型インフルエンザ等対策研修会を開催

大船渡地区消防組合消防本部（岩手）

大船渡地区消防組合消防本部では、平成30年10月18日（木）、大船渡市防災センター防災研修室において、平成30年度気仙地域新型インフルエンザ等対策研修会を開催しました。

当研修会は、新型インフルエンザなど感染症の発生時において、気仙地域の関係機関等が迅速かつ効果的な組織活動を展開するために、より実践的な初動対応体制を確立することを目的として、岩手県大船渡保健所を実施主体とし、県立大船渡病院をはじめ、当消防本部及び陸前高田市消防本部（岩手）で構成する気仙地域メディカルコントロール協議会の共催で実施しました。

いわて感染制御支援チーム（ICAT）構成員で岩手医科大学附属病院感染症対策室長の櫻井滋氏を講師としてお迎えし、座学とPPEの着脱等の実技訓練を行うことで、感染防御に対する知識を深め、感染症患者搬送等に係る救急対応を確認することができました。

今後も、関係機関と連携して様々な研修会を行い、住民の皆様に安心した生活を送っていただけるよう、知識・技術の向上に励んでまいります。



【研修会の様子】

◆ 熊谷市消防団員研修「ファーストレスポnderコース」を実施

熊谷市消防本部（埼玉）

熊谷市消防本部では、平成30年10月21日（日）、入団3年未満の消防団員を対象として、職員指導によるJPTECファーストレスポnderコースを実施しました。

当市では、来年、ラグビーワールドカップ2019が開催され、たくさんの来場者が予想されることから、傷病者の発見（事故等の覚知）から救急隊に引き継ぐまでの対応を、約2時間30分のコースで行いました。

参加した団員からは、「外傷傷病者に対する観察・処置方法に関する理解を深めることができました。」などの声が寄せられ、とても有意義な研修となりました。



【研修の様子】



【研修後の記念写真】

◆ ドローンの活用に関する研修会を開催

出水市消防本部（鹿児島）

出水市消防本部では、平成30年10月22日（月）、職員研修の一環として、ドローンを用いた測量、桜島や新燃岳火口の調査等に活躍されている鹿児島ドローン協会の川崎氏を講師に招き、ドローンの活用及び操縦に関する研修会を開催しました。

講師からドローン技術の変遷、航空法上の注意点をはじめ、目視では確認しづらい火災現場での消火活動への利用、測量技術を生かした火災調査への応用、山岳における赤外線カメラでの行方不明者捜索、水中ドローンを利用した水難救助等、多種多様な活用方法を熱心に講話いただき、大変有意義な研修となりました。



【研修の様子】

◆ テロ災害等の対応力向上を目的としたターニケット取扱研修を実施

平塚市消防本部（神奈川）

平塚市消防本部では、平成30年10月23日（火）及び24日（水）の2日間、平塚市民病院において、神奈川県下の秦野市消防本部、大磯町消防本部及び二宮町消防本部と合同で、テロ災害等の対応力向上を目的としたターニケット取扱研修を行いました。

今回の研修は、湘南地域が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の会場となることから、テロ災害等発生時の負傷者に対する止血処置に関する知識・技術の習得のために実施しました。

研修では、藤沢市民病院救命救急センター長の阿南英明医師から、爆破テロを主としたテロ災害の特徴、他の災害との対応の違いについて等の講義をしていただき、平塚市民病院救命救急センター長の葉季久雄医師及び救急科の佐藤幸男医師の指導のもと、爆破テロ等で四肢離断等の大量出血が起こった場合に有効とされる、ターニケットを用いた止血処置の実習を行いました。



【研修の様子】

◆ 若手職員のための火災原因調査研修を実施

印西地区消防組合消防本部（千葉）

印西地区消防組合消防本部では、平成30年10月26日（金）、当消防本部火災調査室・実験室において、拝命10年未満の一部の職員計15名を対象に、火災原因調査研修を実施しました。

研修の目的は、火災件数が減少傾向にあり、火災調査の機会が減っていることや、団塊世代の大量退職によって火災調査技術の低下が懸念されていることから、若手職員を中心に火災調査に触れる機会を提供し、知識・技術の向上を図るために実施しました。

研修内容は、火災の出火原因になりやすい微小火源（たばこ、配線の短絡など）に絞り、「どのような状況であれば、どのような物に着火するのか」を各班で話し合い、実験後に、「なぜ火がついたのか、なぜ火がつかなかったのか」再度ディスカッションし、参加した職員自らが火災のメカニズムを導き出すことで、現場での着眼点等を養いました。

研修を少人数制としたことで、一人一人に行き届いた指導を行うことができ、活発な意見や質問も上がり、手ごたえのある研修になりました。

また、今回の研修では、管轄の警察官も参加し、火災知識の再確認及び円滑な現場活動のための関係強化も図ることができました。



【グループディスカッションの様子】



【ごみ箱の燃焼実験の様子】

◆ 平成30年度違反是正実務シミュレーション実習を開催

北部消防連絡協議会（沖縄）

沖縄県の北部地域を管轄とする4消防本部（国頭地区行政事務組合消防本部、本部町今帰仁村消防組合消防本部、名護市消防本部、金武地区消防衛生組合消防本部）による協議会では、平成30年10月26日（金）、違反是正実務研修シミュレーション実習を開催しました。

この実習は、予防未経験の消防職員を対象として、平成28年度から違反是正実務研修を継続して実施しており、今年度で3回目の開催となります。

今回の実習は、立入検査及び違反是正の基礎を習得させ、消防吏員による措置命令の発動までの流れをシミュレーション実習で学ぶ形式で行いました。

各消防本部から集まった計15名の研修生は、これまで座学で学んだ知識を実践形式のシミュレーションの中で発揮して、関係者への質問から必要な情報を聞き取り、設定された防火対象物の状況を確認して、関係者役の職員へ丁寧に説明を行っていました。さらに、シミュレーション実習の中では筆記試験も行われ、研修生は予防技術検定試験レベルの問題にも取り組み、これまでに身に付けた知識・技術を発揮する実習となりました。



【立入検査の結果を関係者に伝える様子】

そ の 他

◆ 消防団員（保育士）による団員の子ども一時預かり訓練を実施

横浜市消防局（神奈川）

横浜市消防局旭消防署では、平成30年10月15日（月）、南本宿消防出張所において、大規模震災時を想定した「消防団員（保育士）による団員の子ども一時預かり訓練」を実施しました。

大規模震災時には、地域防災の要となる消防団の力が必要となりますが、団員の中には子どもを養育中のため手が離せず、消防団活動が困難となってしまう方もいます。

そこで、南本宿消防出張所に隣接する「横浜小谷かなりや保育園」に勤務する団員（保育士）の協力のもと、訓練を実施したものです。

訓練は、地震の発災から始まり、保育園内の安全確認、勤務地団員として直近消防出張所への参集、子どもの一時的な見守りに必要な道具の設定、預かる子どもの情報を聴取及び引き取りまで一連の動作を、初動対応訓練として実施しました。

旭消防署及び旭消防団では、限られた消防力を最大限に活用できるよう、災害活動だけではなく、団員へのバックアップ体制も充実させ、大規模震災時の災害対応能力の強化に取り組んでいます。



【サークルを設定する様子】



【消防団員から子どもを預かる様子】

◆ 人命救助活動協力者に感謝状を贈呈

大東四條畷消防本部（大阪）

大東四條畷消防本部では、平成30年10月17日（水）、適切な応急手当により心肺停止の傷病者を救った人命救助活動協力者に対し、感謝状贈呈式を行いました。

当事案は、平成30年6月18日（月）、走行中のトラックが運転手の意識喪失による単独事故を起こし、目撃した被表彰者が事故車両に取り残されている運転手に対して容態観察を行うとともに、気道確保及び胸骨圧迫を実施されました。

懸命な応急処置は救急隊が到着するまで継続され、救急隊に引き継がれた傷病者は救急車で心拍が再開し、無事に社会復帰されました。

二次災害等の危険も顧みず、尊い命を救った勇気ある行動に感謝の意を表し、消防長から感謝状を贈呈しました。



【感謝状の贈呈】

消防学校からの便り

◆ 中州救助訓練を実施

静岡県消防学校

静岡県消防学校では、平成30年10月24日（水）、専科教育救助科（第35期）の教育訓練として、消防学校の間近を流れる興津川（二級河川）において、中洲救助訓練を実施しました。

今回の訓練は、近年、多発している自然災害に対する救助技術の向上を目的として、県内の救助隊を教育支援隊として招き、実際の河川を使用した環境下での訓練を行いました。

訓練では、網み構造ロープを使用したロープ展張訓練、橋の欄干を使用した降下訓練、三連はしごの水平架梯訓練などを実施しました。

参加した救助隊員は、訓練施設とは異なる自然環境下での訓練に苦戦していましたが、実災害に対する課題を見出すことができ、充実した訓練となりました。



【中州救助訓練の様子】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 「外国人来訪者や障害者等が利用する施設における災害情報の伝達及び避難誘導に関するガイドライン」のリーフレットの配布について

（平成30年10月26日、事務連絡）

消防庁予防課から各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・各指定都市消防本部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるにあたり、「外国人来訪者や障害者等が利用する施設における災害情報の伝達及び避難誘導に関するガイドラインについて」（平成30年3月29日付け消防予第254号。以下「ガイドライン」という。）に基づく取組を推進し、多数の外国人来訪者や障害者等の利用が想定される駅・空港や競技場、旅館・ホテル等（以下「対象施設」という。）における外国人来訪者や障害者等に配慮した効果的な自衛消防体制の整備を図っていただくようお願いしているところです。

今般、消防庁において、ガイドラインのポイントを整理したリーフレットを作成しましたので、対象施設への訓練指導等の機会をとらえ、ガイドラインの趣旨や内容を周知するために、ご活用いただきますようお願いいたします。

各都道府県消防防災主管課におかれましては、貴都道府県内の各市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対し、この旨周知いただくようお願いします。

なお、各関係省庁に対しても、別添（省略）のとおり、ガイドラインの周知を依頼していることを申し添えます。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi3010/pdf/301026_jimurenaku.pdf）に掲載されています。

消防庁予防課 企画調整係

担当 坂本、木村

電話：03-5253-7523 FAX：03-5253-7533

◆ 平成30年1月～6月の製品火災に関する調査結果について

(平成30年11月2日、事務連絡)

消防庁予防課から各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・各指定都市消防本部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

今般、平成30年1月～6月の火災のうち、自動車等、電気用品及び燃焼機器の不具合により発生したと消防機関により判断された火災の調査結果を別添（省略）のとおり取りまとめましたので、送付いたします。

調査結果につきましては、消費者庁に情報提供するとともに、自動車等については国土交通省と、電気用品及び燃焼機器については経済産業省と連携を図り、製品に起因する火災の再発防止のために活用することとしております。

なお、調査結果は当庁ホームページ(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList4_7.html)に掲載しておりますので、引き続き製品に不具合があり出火危険のある製品の周知等、製品火災に関する注意喚起について御協力いただきますようお願いいたします。

各都道府県消防防災主管課におかれましては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対し、この旨周知していただきますようお願いいたします。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi3011/pdf/301102_jimurenaku.pdf)に掲載されています。

消防庁予防課

担当：島村・柏原・上村

電 話 03-5253-7523

FAX 03-5253-7533

E-mail k.uemura@soumu.go.jp

報道発表

◆ 平成30年秋の褒章（消防関係）

(平成30年11月2日、消防庁)

平成30年秋の褒章（消防関係）受章者は101名で、褒章別内訳は次のとおりです。

紅綬褒章	2名
黄綬褒章	7名
藍綬褒章	92名
計	101名

（受章者名等は、別添（省略）の受章者名簿に記載されています。）

発令年月日 平成30年11月3日（土）

受章者のうち、

- ① 紅綬褒章は、災害現場等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した者
- ② 黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の研究開発及び製造販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに、業界の発展に大きく寄与した者
- ③ 藍綬褒章は、消防団員や女性（婦人）防火クラブ員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した者を対象としています。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/11/301102_houdou_1.pdf)に掲載されています。

連絡先

消防庁総務課

平寄政策評価広報官・矢島係長

Tel 03(5253)7521 内線42171

Fax 03(5253)7531

◆ 「第24回全国女性消防団員活性化滋賀大会」の開催

(平成30年11月2日、消防庁)

全国の女性消防団員が一堂に会し、日頃の活動やその成果を紹介するとともに、意見交換を通じて連携を深めることにより、女性消防団員の活動をより一層活性化させることを目的として、全国女性消防団員活性化大会を滋賀県で開催します。

消防団の活動が多様化するなか、平成25年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立し、消防団の一層の充実強化が進められています。

地域コミュニティと深くつながり、きめ細かな視点を持つ女性消防団員は、災害発生時のみならず、平常時に於いても地域住民に対する応急手当の普及、高齢者住宅への防火訪問、子ども達への防火防災教室の開催など、地域社会の安心・安全を確保する上で欠くことのできない大きな存在となっています。

本大会では、全国の女性消防団員が滋賀県に集まり、活動事例発表や防火防災啓発劇を通じて、女性消防団活動の活性化を図ります。

1 開催日時及び場所

日時：平成30年11月9日（金）10:00～15:40

場所：「ウカルちゃんアリーナ（滋賀県立体育館）」（滋賀県大津市におの浜4丁目2-12）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h30/11/301102_houdou_2.pdf) に掲載されています。

(連絡先) 消防庁国民保護・防災部地域防災室
担 当：加藤理事官、佐久間係長、川野事務官
電 話：03-5253-7561（直通）
F A X：03-5253-7576
e-mail：syobodan@ml.soumu.go.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人 全国消防協会では、平成31年5月を目途に機関誌「ほのお」を一部改編することとしており、次のとおり試行（2019年3号までの試行）として、新しいコーナーの記事を募集しています。

- ① 知識・技術の伝承-教えて！消防技術-
- ② 女性職員の活躍・推進

執筆要領等の詳細は、週間情報No.3032又は機関誌「ほのお」2018年9号29頁を参照願います。

なお、消防ワイドについても随時、記事を募集しておりますので、引き続きご投稿お待ちしております。※消防ワイドは、150文字程度 of 原稿及びJPEG画像データを honoo@ffaj-shobo.or.jp に送信願います。

TEL：03-3234-1321（機関誌「ほのお」担当：原）

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL：03-3234-1321 FAX：03-3234-1847 E-mail：weekly@fcj.gr.jp